

# 米国 ～雇用の急減速は一時的も利上げは先送り～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

## 雇業者数大幅減速と失業率急低下

次回利上げ時期をめぐり、注目の集まる米国労働市場であるが、5月については雇業者数の増加幅が急減する一方で、失業率は急低下するという両極端の結果となった。

16年5月の非農業部門雇業者数(季節調整済み、事業所調査)は前月差+38千人(前月同+123千人)と大幅に減速し、市場予想中央値前月差+160千人を下回ったうえ、3、4月合計で▲59千人下方改定された。内訳をみると、政府部門が増加に転じたものの、民間部門の雇業者数が前月差+25千人(前月同+130千人)と大幅に減速した。

5月の雇業者数増加幅の急減速については、大手通信会社でのストが約3万5千人の下押し要因となったことも影響している。毎週公表される新規失業保険申請件数をみると、大手通信会社でのストが開始された時期に失業者は増加したが、5月の雇用統計調査週以降にはストの前の水準である27万件程度に再び低下しており、ここからみても、雇用情勢が急激に悪化したわけではないと判断されよう。

一方で、5月の失業率(U3、家計調査)は、4.7%(前月5.0%)と市場予想以上に低下し、07年9月の4.674%以来の低い水準となった。もっとも、この失業率の大幅な低

下は労働参加率が62.59%(4月62.82%)と低下したことによるものだ。これがなければ5.0%と前月とほぼ変わらない。また、労働市場から退出してから1年以内の人を失業者に加えた広義の失業率は9.7%と前月と同水準だ。

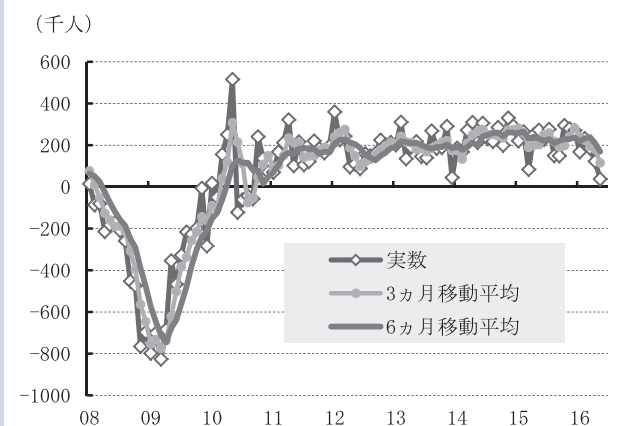
以上のように、表面的には弱い雇業者数と強い失業率はともに雇用の実勢を示していない。ストなど一時的な要因を排除したうえで両方を勘案すると、雇用情勢の改善が急激に鈍化している訳ではない。

## 次回利上げは9月か

FRBは5月の雇用統計の結果については、一時的な鈍化の可能性が高いとしつつも、企業が採用に慎重になった可能性もあるため、確認が必要としている。雇用の減速が一時的であったことが確認されるまで利上げは見送られよう。

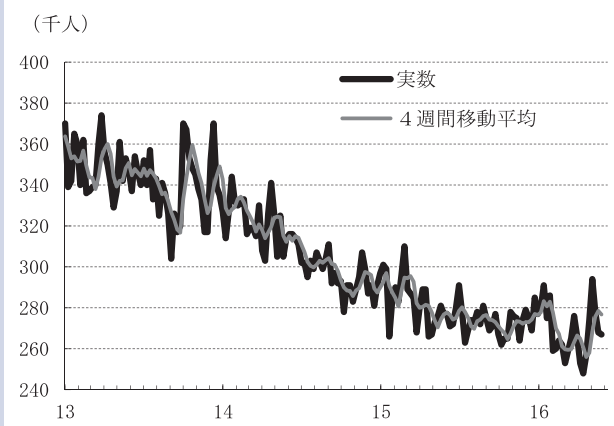
FRBは6月の雇業者数再加速、景気拡大ペースの加速を予想していると見られ、7月FOMCでの利上げの可能性を示唆し続けると予想される。しかし、低いインフレ率、世界経済の成長鈍化を考えると7月FOMC前にFRBが期待する経済情勢が実現するとは見込みにくい。米国の経済成長率再加速確認のタイミングも考慮すれば、次回利上げは9月になると予想されよう。

資料1 米国非農業部門雇業者数(前月差)



(出所)米労働省データより作成

資料2 新規失業保険申請件数の推移



(出所)労働省